

# はばたき

大分大学教育福祉科学部

附属小学校便り No.5

平成27年11月10日

## ～附属小学校の特別活動について～

教頭 河野 雄二

附属小学校が現在の教育の流れに沿って取り組みをしていることを学校便りの中でお知らせしてきました。今回は、委員会活動（本校ではセンター活動）・クラブ活動・宿泊体験学習・運動会等の特別活動についてお伝えします。

学校における教育活動は、文部科学省の出している学習指導要領に基づいて各学校で教育課程を編成し行われています。学習指導要領は10年ごとに時代の変化に応じて改訂され、各学校はその変化を学校の教育課程に反映させていきます。学習指導要領では教科や領域ごとに標準時数が決められています。特別活動には、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事がありますが、学級活動は週1時間で年間35時間（1年生は34時間）、児童会活動、クラブ活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、適切な授業時数を充てるものとされていて、本校では児童会活動である委員会活動は月1時間程度、クラブ活動は年間8回を計画しています。それは、学校5日制以降、平日に授業が多く生まれ、改訂以前のように委員会活動・クラブ活動をたくさんとることはできなくなったためです。ちなみに、九州の他附属小学校では、ずいぶん早くから委員会活動は月1回程度で、なかには15分の委員会を毎週金曜日に行っているところもあります。

本校は、教育課程等の管理が適切に行われていないという問題がありました。本来、附属小学校も年間の限られた時数の中で、バランスをとりながら教育活動を行って行かなくてはなりません。ある活動で時間を取り過ぎると、他の学習や活動ができなくなったり軽く扱わなくてはならないという問題が生じてきます。限られた時間の中で、いかに質の高い教育活動を展開していくかが、平成25年度より大学から強く求められました。そのため、校長先生が監督のもと特別活動等の見直しも行ってきましたが、平成26年度10月に大分大学教育福祉科学部改革推進室より、改善が進んでいないという指摘と同時に、改善を急務に行うよう指示が出されました。そこで、11月より全教職員で何度も協議を重ね、限られた時間の中で、質の高い教育活動をいかに展開していくか、これまでの教育活動の点検と先進地視察等も行い、平成27年度より新しい附属小学校がスタートできるように準備してきたのです。今年度その取り組

みは、平成27年10月14日の教育福祉科学部の地域運営協議会の中で、大学からも評価を得ることができました。

例えば、新聞センターは、月一回のセンターの時間と中休みや昼休み、家庭学習の合間を縫うように準備し新聞を発行していました。しかし、時期によっては学年活動や各種行事に伴う実行委員会活動にも参加するため、センター活動の時間がとれずに発行日に間に合わないことや、記事も十分に練れないこともありました。そこで新聞センターの児童と担当教師で今後の発行をどうするか話し合い試行期間をとった上で、毎日の発行を一旦中止ししっかり準備してから発行することになりました。現在は新聞社の方をゲストティーチャーとして招き指導を受け、質の高い学校新聞を目指して取り組んでいるところです。

クラブ活動については、学習指導要領上に時数の設定はなく、余剰時間の中で行っています。

6年間通した活動ができにくくなっているのも、同じ理由からです。限られた時間の中で活動を続けていくためには、総合的な学習の時間で行う探究的な学習と関連づけて時間を確保する必要があります。授業とのバランスを考え、できる範囲での活動をしていくこととしています。

香々地・九重・修学旅行の宿泊体験学習は、今年度から1日短くしました。他の学習や行事とのバランスに加え、同じような活動の繰り返しがあること・体調を崩す児童が増えることも考慮し日数を短縮しています。しかし、1日短くした分、内容を充実させ質を落とさないように工夫しています。

先日行われた運動会は、学校行事の中の体育的行事の一つです。その運動会でも質を高める取り組みが行われました。その取り組みについて、6年部学年主任の田中教諭と体育主任の小野教諭は次のように述べています。

### 運動会を終えて

6年学年主任 田中 修  
平成27年度の大運動会が終わりました。6年生にとっては、小学校最後の運動会となります。勝敗にこだわることは勿論大切なことではありますが、6年生の担任として、優勝よりも大切なものを手に入れて欲しいという思いも



持っていました。優勝しかめあてに無ければ、1/3の子どもの願いしかかなわない運動会となってしまいます。6年生117名の誰にとっても価値のある運動会であって欲しいと思っていました。青組の完全制覇に終わった今年度の大運動会が、果たして117名にとって価値ある運動会になり得たのか、数人の子どもの姿から述べていきます。



Aさんは、応援団の児童の一人です。朝・中休み・昼休み・放課後と、授業以外の全ての時間を練習につぎ込みました。途中、疲れたり嫌になったりしたこともあったそうですが、仲間とともに最後まで頑張り抜くことができました。そして、「私は、前よりも常に自分事として捉えられる自分になれたと思います。(略)運動会が終わり、生まれて初めて嬉しくて泣きました。それだけ頑張れたのかなと思いました。(略)今後も自分をしっかり磨き続け、周りをよく見てできることを常に探していきたいです。(略)」と振り返りました。

「小太鼓を叩く動作の時の手の動きは回す？それとも叩く？」「御輿を担ぐ動作の時の足はどうなっている？」



府内戦紙の取り組みでの一つのグループの会話です。動きの細部にまでこだわって練習している様子が窺えます。また、全体で曲に合わせて踊った後、曲が終わると同時にグ



ループになって、自分たちの踊りを「チェック」し、その場ですぐ「修正」しようとするグループもありました。一つの練習を大切に、こだわりをもって取り組んでいく。小さなことを積み重ねていく姿が見られました。



Bさんは戦紙実行委員の児童の一人です。踊りの構成から隊形まで、戦紙実行委員が学年に提案しました。「太鼓の音だけで踊りたい」という想いを最初に提案したのがBさんです。思えば、昨年の七夕祭りでの悔しさから、今年も七夕祭りに参加してやり遂げようと、学年に熱く呼びかけたのもBさんでした。戦紙に対する想いを持ち続けていることが分かります。「あんなに笑ったり、喜んだり、



悲しんだり、泣いたりした一日は人生で初めてでした。」Bさんはこのように書き出し、青組に完全制覇されたことの悔しさや、綱引き、騎馬戦での頑張りや、細部に振り向き、次のようにまとめました。「(略)そして何より戦紙です。実行委員として話していたので本当に良かったです。これに関しては、先生、太鼓を叩いてくれた三人にウルトラ感謝です。こうして大運動会が終わりました。泣い

たり喜んだりしたのもマジ(本気)だったからだと思います。何か安心しました。結果オーライ!!良い思い出も苦い思い出も運動会ありがとう。」これは、全力を出し尽くしたからこそ出てくる言葉だと思います。

数人の姿から運動会の成果を紹介しましたが、このように一人一人が持てる力を生かして得た成果はそれぞれ違いがあるものの、117人のものとして、卒業まで駆け抜ける力として欲しいと願っています。6年生後半は、いよいよ自分の進路を決め、必要な力を更に充実させていかなくてはならない大切な時期です。運動会での成果を自信にし、自分に厳しい態度の向上を期待しています。



## 組織的に取り組んだ運動会

体育主任 小野 雄平

本年度の運動会の練習期間は、2週間としました。そのうち、前半は教育実習 A と重なっていたので、運動会練習に専念できる期間は、実質10日間前後しかありませんでした。この短い期間で、運動会を作り上げるためには、子どもたちと教職員の組織的な取組が欠かせません。



本年度の運動会スローガンには、子どもたちの思いと教職員の願いの両方が詰まっています。子どもたちと教職員の思いや願いがスローガンに込められることによって、短い期間でも素晴らしい運動会を作り上げることができました。その取組の様子を紹介したいと思います。

まず、教務主任と体育主任が中心となって本年度の運動会の指導重点を決めました。また、児童会担当が中心となって運動会にかかる子どもたちの思いを出し合い、まとめました。そして、その両者の思いや願いをもとに協議することによって、本年度のスローガンが完成しました。「仲間の声や思いを聴いて『できたの花』をさかせよう～全力・協力・継続力～」の中には、2学期の重点目標である「聴く」という言葉、そして、児童会のテーマである『『できたの花』をさかせよう』の両方が含まれています。

次に、本年度は児童が主体的に活躍できるようにスローガンの作成だけに限らず、小運動会・大運動会後に、子どもたちの代表（児童会長・各組応援団長）と教師の話合いの場を設定しました。一緒に作ったスローガンを子どもたちとともに振り返ることによって、よりよい運動会作りを目指しました。特に、



小運動会後の話合いでは、各組（6年生中心）で話し合われた小運動会の振り返りを、応援団長を通して知ることができ、翌日の全校練習に子どもたちの思いを反映させることができました。そのため、この全校練習を契機に各組の結束力が大きく高まり、あの素晴らしい大運動会へとつながっていったのです。



また、教職員の様子についても紹介したいと思います。学校行事の中でも、運動会は大切な行事です。子ども、教職員、保護者そして地域が一つにつながります。そのため、運動会を開催するためには、綿密な計画と準備が必要になります。本校では、校長のリーダーシップの下、学校が最大のパフォーマンスを発揮するために「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」の構築を先進的に取組んでいます。今回の運動会の計画・準備も組織的に進めてきました。例年の運動会では、色ごとのまとまりで教職員が結束する傾向にありましたが、本年度の運動会から、ほどよい色ごとの結束力は残しつつ、それ以上に色を超えて教職員が一つとなり、互いに協力やアドバイスをしてきました。教職員が一つになって準備や指導にあたったことが、子どもたちにも良い影響を与えたのではないのでしょうか。

今後も、風通しのよい職場のもと、教職員が一体となって子どもたちと一緒に歌声発表会など今後の行事にも取り組んでいきたいと思っています。

